

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K00787

研究課題名(和文) 特別支援学校における肢体不自由児の衣生活改善支援システムの構築

研究課題名(英文) Construction of a support system for improving the clothing life for children with physical disabilities in special needs schools

研究代表者

山田 由佳子 (Yamada, Yukako)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20304074

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、肢体不自由児を対象とした既製服リフォームによる衣生活改善を目的としており、以下の成果が得られた。1) 簡単なリフォーム方法を検討し、冊子および動画を作成した。2) 特別支援学校に通う児童生徒の保護者を対象にアンケート調査を行い、衣服の問題点と既製服リフォームの必要性を明らかにした。3) 肢体不自由児の保護者に、作成した教材を用いてリフォーム指導を行い、その有効性を確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、比較的研究報告の少ない年齢の低い肢体不自由児の衣生活改善に着目し、毎日繰り返される着替えの不都合を既製服リフォームにより解決することを試みた。開発した冊子等の教材は、手芸本も見当たらない子供服のリフォームにとって、貴重な資料となる。毎日の着替えの不都合を解決することは、肢体不自由児の身体の安全を守るのみならず、保護者のQOLの向上にも役立つと考えている。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to improve the clothing life by reforming ready-to-wear for children with physical disabilities. The following results were obtained. 1) We considered a simple reforming method and created a handbook and video. 2) A survey was conducted on parents of children in special needs schools, and clarified the problems with clothing and the need for ready-to-wear reforming. 3) We provided reforming guidance to parents of children with physical disabilities using teaching materials and confirmed their effectiveness.

研究分野：被服学

キーワード：肢体不自由児 医療的ケア 既製服 リフォーム 特別支援学校

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

今、市場で売られている既製服は最も平均的な体型を基準に展開しており、高齢者や障がいのある人など、個々の事情に合わせた既製服がない事が問題として指摘されている。子供服についても例外ではなく、一般的な子供服売り場には障がいのある子供用の衣服は売られていない。HP等で障がいのある子ども用の衣服を売っているサイトもあるが、一般の子供服に比べると値段が高いものが多い。毎日の普段着としてその子に合った衣服を安価に手に入れる為には保護者がリフォームするのが一番だと考えられる。

障がい児(者)の衣服については多くの研究が行われており、その問題点が数多く指摘されているが、ある程度の自立が可能である障がい児(者)がよりよい衣生活を送るための研究が多く、衣生活の自立が困難な重度の身体障がい児(者)の衣生活についての研究は比較的少ない。その中でも、雙田¹⁾が保護者に対する衣生活教育プログラムの実践及び技術指導を行っており、着脱動作の改善を主にジーンズのリフォームを行っており、非常に満足度が高いとの報告がある。しかしこれは高校生を対象としたもので、比較的年齢の低い子どもの衣服リフォームを対象とした研究はほとんど見当たらない。

重度の肢体不自由児は自分で着替えが出来ず、保護者や介助者が着替えを行う事がほとんどである。着替えさせにくい衣服は骨折、脱臼の原因ともなると指摘されており、手足の拘縮、医療的ケアの機器類を避けて細心の注意を払って着替えさせる必要がある。衣服のほんの少しの不都合が毎日、毎回の着替えで積み重なる事で子どもにとっても、着替えさせる者にとっても大きなストレスにもなりうる。しかし、いざリフォームしようとしても、既製服のリフォームの手芸本は大人が対象の介護服として多く見られるばかりで、障がいのある小さい子ども用衣服のリフォームのテキスト教材となるような手芸本等は見当たらない。

2. 研究の目的

そこで本研究では、肢体不自由児を対象とした既製服リフォームによる衣生活改善を目的とする。まず、簡単なリフォーム方法の検討を行い、冊子および動画教材を作成する。更に、特別支援学校の小学部から高等部の保護者を対象として衣服について問題と感じている点やリフォームの現状をアンケートにより明らかにする。最後に、開発した教材を基に、協力を得られる特別支援学校の保護者にリフォーム指導を行い、教材の有効性を検証する。

3. 研究の方法

(1) リフォーム教材の作成

重度肢体不自由児の衣服の問題点として、研究協力者等の予備調査の段階で前開き衣服、大きいボディの必要性が見いだされたことから、リフォーム教材の作成にこの2点を取り上げた。前開き衣服は、手足の拘縮等がある場合特に必要とされると考えられるが、医療的ケアが必要な子どもの場合も、カニューレバンドの交換や胃ろう漏れ等に対応するために前開き衣服が必要である。又、障がいの程度は様々で、一概には言えないが、防寒の為又オムツはずし防止の為等でボディを着せる場合も多い。そもそもボディは一般には身長95cm程度までの乳幼児用しか販売されておらず、前開きボディは更に小さい70~80サイズ位までしか商品が無いのが現状である。体の大きい子ども用の前開きボディは障害児用として一部インターネットで販売されているものの、高価であり、サイズによっては品切れ状態が続いている。このような状況からもボディを大きくする方法、および、ボディや上衣を前開きにする方法について冊子および動画教材の作成を行った。

(2) アンケート調査

大阪府下の特別支援学校に通う小学部から高等部までの児童生徒の保護者を対象に、令和元年6月上旬から7月下旬にかけてアンケート調査を行った。アンケートにおける倫理的配慮については大阪教育大学倫理委員会の承認を得た。配布方法は、学校長に依頼して間接配布を行い、回収は保護者より直接郵送にて受け取った。2校の特別支援学校に配布を依頼し、合計で配布票116票、有効回収票61票で、有効回収率は52.6%であった。内容は、衣服について困っている点、リフォームの妨げとなるもの、カニューレバンドと胃ろうについて、等である。なお、教員についてもアンケート調査を行ったが、配布、回収数が少ない(配布数40票、有効回収票15票)ことから一部参考として紹介するにとどめることとする。

(3) リフォーム指導の実施と教材の有効性の検証

肢体不自由児の保護者2名に個別リフォーム指導を行った。保護者Aはボディを大きくする方法(平成30年9月14日)、保護者Bはトレーナーを前開きにする方法(平成31年11月20日)について、(1)で作成したリフォーム教材を用いて指導を行った。保護者A,B共に女性で、保護者Aはこれまで小物を作る程度はしており、普通ミシンは自宅に所有していたが、ロックミシンが無かったことから貸し出して実習を行った。保護者Bは普通ミシン、ロックミシン共に所有しており、ある程度の裁縫技術の高さが伺えた。両名共に指導、作成後、作成方法や使用した教材についての評価を行ってもらった。

4. 研究成果

(1) リフォーム教材の作成

保護者が自分一人でビデオを見ながらでも行えることを目標に、簡単で、特別な専門技術を必要としないものを考案し、試作を行った。これらのリフォームについて、詳しい作成手順を説明した動画を作成し、タブレットで気軽に確認できるようにした。また、同様に、手順を写真、イラストでわかりやすく記載した手引書の作成も行った。具体的には以下の2点である。

ボディを大きくする方法

ボディを大きくする方法は大きく分けて2種類考案した。一つは、二つのボディの上半部分と下半部分を出来るだけ大きく切り離し、繋ぐ方法(図1) もう一つは、一つのボディを上下に裁断し、その間に他の不要な肌着やメリヤス布を用いて付け足す方法(図2)である。対象の肢体不自由児の肩から股までの長さを測り、縫い代を考慮して裁断するよう教材では注意喚起した。縫い合わせにはロックミシンを用いた。普通ミシンでも不可能ではないが、伸縮性のあるメリヤス生地が使われていることが多く、縫い代の始末も同時に可能であることから、2本針ロックミシンにて縫製と縁かがりを同時に行った。

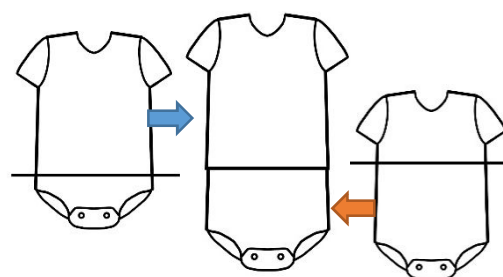


図1 ボディを大きくする方法
(二つを繋ぐ方法)

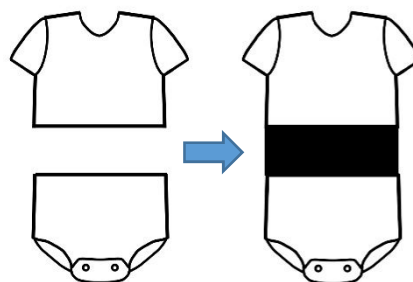


図2 ボディを大きくする方法
(間に布を付け足す方法)

前開きにする方法

上衣又はボディを前開きにする際に最も重要な検討事項は前を切り開いた後の前立て部分をどうするかであった。幅が短すぎると重なり部分が少なくなることから、今回は約2~2.5cmの前立て幅とするため、布を幅6~7cmに裁断し、5cmのバイアステープメーカーを利用して前立てを事前に作成した。作成はなるべく手間を少なくする工夫を凝らした。まず、印をつける手間を省くため、及び布のまくれを防ぐため、更に前立て部分の補強の為に、中心を切り開く印をつける代わりにアイロン接着のストレートテープを衣服の中心に貼った(図3)。これを目印に、テープ中心を裁断した。又、待ち針を打つ、しつけをかけるといった作業が面倒くさい、難しいと感じるであろうことから、しつけ用のテープ又はのりを使用した。これらの製品は洗濯すると落ちるとの記載があり、残留することはないと考えられる。本体にテープ又はのりを貼り、事前に作成した前立てを貼り付けて、角をたたみながら更に貼り付けて固定することで、待ち針やしつけ糸によるしつけ以上に簡単に、ずれずにミシンをかけることができた。最後にプラスナップを取り付けると完成となる。教材作成では、必ず洗濯で溶けるタイプのテープを使用するよう注意喚起を行った。又、事前に作成する前立ては、全く同じ幅に折ると最後の端ミシンで裏が落ちる可能性が高いことから、前立ての二つ折時に1~2mmずらして折るようにした。教材では、ずらして折った前立ての、長い方が裏、短い方が表となるよう特に注意喚起を行った(図4)。



図3 ストレートテープ貼付

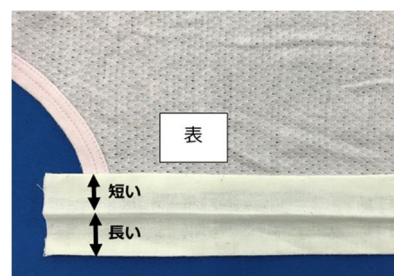


図4 前立て布の合わせ方

(2) アンケート調査

衣服の問題点として図5に示す通り、「障がいを持った衣服は通信販売しかない、高いので困る」、「体温調節が難しい」の項目が共に73.8%、更に、「障がいを持った衣服が売っていない」が72.2%と7割以上の方が既製服について困っている実態が明らかとなった。

このように障がいを持った衣服が売っていない、売っていても高いとの不満から、リフォームの必要性が示唆されたが、実際にリフォームを行ったことがある人は54.3%と半数程度であった。リフォームをしたいと思ったときに妨げになるもの(図6)としてはリフォーム経験者では「時間・余裕がない」ことが挙げられ、未経験者では「やり方がわからない」「上手くできない」が挙げられたことから、未経験者に対するリフォーム指導の有効性が示唆された。

今回、医療的ケアの中で気管切開されていたのは61人中8人であった。カニューレバンドを自作している人は5人、作ってもらっている(無償)人は1人で、購入している人は3人であった(複数回答)。購入したカニューレバンドは価格が高く、マジックテープがすぐダメになるとの不満があった。一方で、参考までに教員の回答を紹介すると、教員15人すべての人が気管切開をされた児童生徒を担当したことがあり、前開きの服でないと着替えさせにくいと感じている。よくはずれるバンドで困った経験や、子どもがバンドごとカニューレをはずした経験がある事もわかった。バンドのマジックテープが他の所にくっつくとの不都合も挙げられたことから、事故を防ぐためにもカニューレバンドの留め具をどうするかという課題が明らかとなった。また、胃ろうをしている児童生徒は、今回61人中16人であった。気管切開、胃ろう共に前開きであることが必要とされており、アンケートからも前開きリフォームの必要性が明らかとなった。

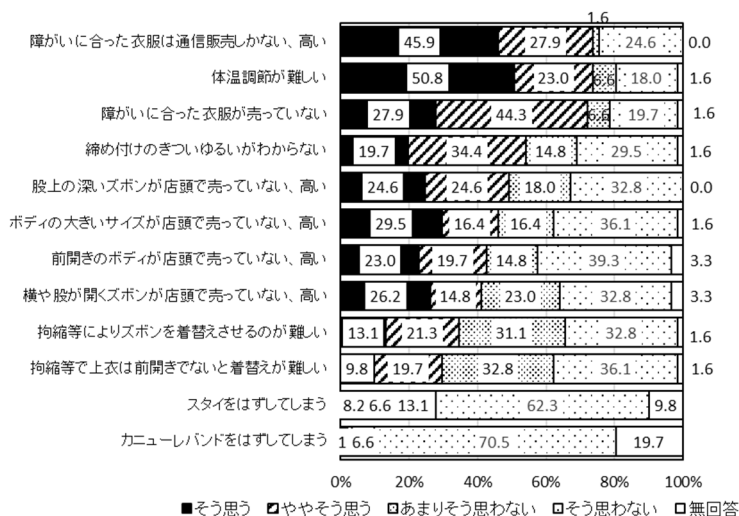


図5 衣服で困っていること (N=61)

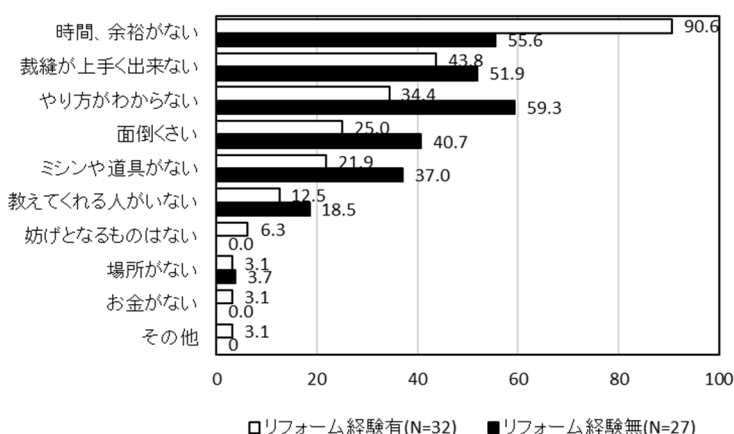


図6 作成またはリフォームの妨げになるもの(複数回答)

(3) リフォーム指導の実施と教材の有効性の検証

(1) で作成した冊子等を用いて指導を行った結果、二名共簡単に習得することができ、仕上がりの満足度も高かった。保護者 A が取り組んだボディを大きくする方法は、小さい頃のボディや、友人等からお古をもらったりしたものを使いまわす事ができ、指導を行った日以降も自分で作成を行って、5着以上仕上げたとの報告があった。冊子や動画もわかりやすいが、一度覚えると何も見なくても出来ると評価が高かった。今回はロックミシンを個人に貸し出して行ったが、複数人で使用する場合は糸切れや布を切るカッターの不具合、針が折れるなどロックミシンの保守管理が問題である。又、保護者 B が取り組んだトレーナーの前開きは、やり方も簡単でわかりやすいが、一から自分でやるとしたら前立ての布を準備するのが少し手間であるとの評価を得た。今回の個人指導ではテープは持参した為、その工程が無かったので非常にスムーズに作業が出来たが、確かに布を切って、パイアステープのように端を折り、1~2mm ずらして半分に折る作業に手間がかかる。自宅では布を広げるスペースも無い場合も考えられる。そもそもミシンもロックミシンも自宅に無い場合はどちらのリフォームも不可能であるため、ミシンが無くても出来るリフォーム方法、もしくは、気軽にミシンを使いに行ける場所を提供する必要がある。当初学校や施設等での講習会を予定していたが、開催にこぎつけることは出来なかった。アンケートでもリフォームの妨げとなるものに「時間、余裕がない」が多く挙げられており、一定の日時、場所を指定して集まる講習会形式は難しいと考えられる。今後は、オンライン指導や動画配信等、保護者の時間空間的負担が無い形でのリフォーム支援が必要であると考えている。

(4) まとめと今後の課題

アンケート調査により、肢体不自由児の保護者は既製服について困っている実態が明らかとなったが、実際にリフォームしたことのある人は半数程度であることがわかった。ボディを大きくする方法、前開きにする方法については考案した教材の有効性が示唆されたが、ミシンが無い人への対応を考える必要がある。又、準備が面倒くさいリフォームは結局取り組まれない可能性があることから、前立て布のもっと簡単な作製方法、代用品の考案が望まれる。又、リフォームの妨げとなるものとして「時間、余裕がない」が挙げられることから、一定の日時、場所を指定して集まる講習会形式ではなく、今後はオンライン指導や動画配信等、保護者の時間空間的負担が無い形でのリフォーム支援を進める予定である。いずれにせよ、保護者のリフォームに取り組もうと言う意欲を高めることも課題として挙げられることから、早いうちにリフォームの経験

をしてもらうのも重要と考え、来年度より未就学児の保護者を対象に研究を進める予定である。又、更に若いうちから裁縫に対する苦手意識を無くし、リフォームに対する心理的な壁を低くするために、高校家庭科で、子供服の前開きリフォームを題材として扱うことを提案する。障がいのある子どもをもって初めて考えるのではなく、高校生全員が、障がいについての理解を深め、衣服にちょっと手を加えるだけで QOL が高まることを一度でも体験していれば、もし将来必要になった時に比較的抵抗なく取り組むことが出来るのではないだろうか。このような教育プログラムについて開発することも今後の課題として挙げられる。

<参考文献>

- 1) 雙田珠巳(2011) 肢体不自由児の衣生活支援アクティビティと QOL の向上を目指した衣服の改善, 科学研究費補助金研究成果報告書, 基盤研究 C 20500672

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山田由佳子	4. 巻 57
2. 論文標題 肢体不自由児の衣服の問題点とリフォームの実態	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生活文化研究	6. 最初と最後の頁 55-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----